

## 第659回番組審議会報告

2021年6月1日開催

### ■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 鯨岡秀紀委員 太平信恵委員  
津村記久子委員 細見良行委員 増山実委員

### ■毎日放送出席者

三村社長、梅本専務、虫明常務、高山取締役、磯澤取締役、藪内取締役、  
岸本制作スポーツ局長、新堂局長補佐、堀プロデューサー、奥田報道情報局長、  
長尾情報番組部長、藤島チーフプロデューサー、津田コンプライアンス局長、  
中西番組審議会事務局長

### ◆議事の概要

コロナ禍の1年が過ぎて

～テレビ番組『サタデープラス』『住人十色』の制作現場より報告

### 【審議の概要】

新堂制作スポーツ局局長補佐が1年のコロナ対策の概要を報告。続いて報道情報局・藤島チーフプロデューサーが『サタプラ』のスタジオやロケのコロナ対策の方針について、また制作スポーツ局・堀プロデューサーが『住人十色』のロケ対策について報告し、意見交換した。

### 【各委員の主な意見は次の通り】

- \*コロナの状況の中でリモートの見せ方については、1年経って視聴者はほとんど違和感なく見ているんじゃないか。
- \*『サタプラ』のリモート出演の見せ方はモニター間の出演者の視線を合わすとか、スタジオのセットと同じポスターを向こうのモニターのほうにも貼って連続性を持たせているとかすごく工夫して見せてると思った。
- \*増田明美さんのコーナーはコロナの感染対策がきっかけだと知ったが、DJというちょっと違うところからむちゃ振りするのがすごく面白いので、すごくよかったと思う。
- \*『住人十色』のコロナ対策の報告を聞いて、涙ぐましい努力をしているんだというのが第一の感想。

\*『住人十色』でスリーショットになった時、全員がマスクをしていて誰かしゃべっているかわからない状況が生まれた。何となく視聴者は判断しているがストレスを感じる。

\*手指を消毒してるのかもしれないが、人の家を訪ねてあちこちさわるのはコロナの状況下ではどうかと感じた。

\*医者や専門家のチェックはきちんと受けているのか、どう関与しているのか。スタッフだけで対策を考えているのかと感じた。

\*コロナの状況下で大変だったということ以上に、ここで得たノウハウが今後どう生きるのか。どう生かしていくのかということを実際に考える時期に来ていると思う。

#### 【番組制作者側の説明、質問への回答】

\*リモートで一番こだわってきたことは、出演者がそこで空気が作りやすい状況をどうやって生めるのかということだった。コロナで、スタジオというもののあり方、空気の作り方を常々考えてやってきた1年だったと思う。苦しい状況にあるが、いただいた課題を現場にもフィードバックしながら、引き続きやっていきたい。

\*マスクをつけたロケは空間の把握と人の把握という二つのストレスがあるということは非常に参考になった。ロケ中にいろんなものをさわることについては消毒はしているが、褒められたことではないと非常に反省した。

\*産業医には基本的に事前に気になることは聞いたり、後で判断を仰いだりしている。できるだけ最少人数で最短の時間で収録しなければならないところが葛藤があるが、どう減らしていくかという点が新しいテレビの作り方かなと思う。

以 上